

穂谷 西雲寺奥竹皆伐中 3月15日(水)

当初500～1000本くらいとの穂谷区長の要請を受け、1月初に浅野先生と阪大野球部員25名の体験を兼ねた西雲寺奥の竹藪の伐採を行ったが、3月初から会員による皆伐を再開し、1ヵ月間で7回の伐採活動を実施した。1回当たり200本以上、累計1800本強の伐採を行ったが、未だ完了せず、あと500本ほどを残している。この棚田ゾーンの竹を皆伐すると視界が大き

く開けて明るい里山が出現し、町の人達を里山に誘いたいと言う南区長の熱意が現実になるスタートとなる。高齢化する穂谷の活性化とともに、竹取の目指す地域貢献活動にも合致するものであり、森林ボランティア活動の最たるものとしてはやく完了させ、生まれ変わった里山の景色を見てみたい。(西本 敏明)

竹ポットによる、実生どんぐり育成・ヤマモモ苗木植樹 3月19日

突起部がヘッコンでいて大きく可愛らしい形のクヌギどんぐりを見つけ、実生からの育成を思い立ち、数十個持ち帰りました。秋になって竹ポット30個を準備、どんぐりを植え込んだところ翌年春、全て発芽してくれました。その後、1年間竹ポットの中で育成し今年の春、枚方市野外活動センターフィールド内の荒地を整備し植樹しました。竹ポット方式での実生育成は、育てるための環境づくりが簡単で、

日照場所選定、害虫からの防護も容易であるうえ、移植時ポットのままで植え込むために、移植時期の制限を受けない等のメリットがあります。加えて、植え込み後の雑草からの食害を受けにくいことや、保全作業時の道具刃先を、竹ポットがガードしてくれる等の利点があります。当日、ヤマモモも8本植樹しました。

(堀田 英雄)